



矢内理絵子さん

市内長野在住の女流棋士。昭和55年生まれ。平成18年女流名人位戦で、清水市代氏に3-0のストレートで勝利し、タイトルを獲得。平成20年には3連覇を達成すると、同年、初代女王の座も獲得し、平成21年には防衛を果たした。平成19年、第2回さいたま荻野吟子賞を受賞。現在、行田市の観光大使を務める。

ので、ひとつの地域だけじゃなくて、いろいろな場所の思い出がありますね。行田は昔から川が多くて、例えば市役所前の常盤通りや埼玉りそな銀行の裏は、大きな川だったんですよ。ウシガエルが「ゴーゴー」鳴いていてね(笑)。

行田は北が利根川、南が荒川に接していて、緑と自然が多く、また、埼玉古墳群や古代蓮、忍城址、足袋蔵など、古代から近代までの歴史が凝縮された、魅力的なまちだと思います。

**矢内** この辺が川だったとは、初めて聞きました。私が生まれる前のことはいえ、ちよっとびっくりというか、想像がつかないですね。

それから行田の魅力といえば、なんといってもゼリーフライですね。子どものころからゼリーフライは大好きでした。

**市長** ゼリーフライというと、運動会を思い出します。当時は、運動会になると

リヤカーを引いたおじいさんが売りに来ていました。長蛇の列に並んで、やっとの思いで買って食べていると、割りばしから落ちちゃったよだね。あれは残念だった(笑)。

**矢内** せっかく楽しみにしていたのに、全部食べ終わる前に落ちちゃうと、ちよっとショックですね(笑)。

行田ならではの観光名物を

**矢内** ゼリーフライとフライは、テレビ番組でも取り上げられていて、少しずつその存在が知られるようになってきましたね。

**市長** 行田市では、ゼリーフライとフライの全国ブランド化に向けて取り組んでいます。平成19年に県内で初めて「埼玉B級ご当地グルメ王決定戦」を行ったのに続き、昨年11月8日には、B級グルメ



の全国大会であるBー級グランプリで優勝したグルメをはじめ、関東・東北地方から18品が出品した「第2回行田市B級グルメ大会」を開催し、大成功を収めました。当日は、忍城時代まつりと同時開催でしたが、約5万8千人の方にご来場いただきました。

いずれ、Bー級グランプリを行田で開催したいと思っています。その時は観光大使の出番ですよ。

**矢内** 全国大会というくらいですから、もし行田でBー級グランプリが開催されるとなったら、かなり多くの方が行田市にいらっしやることになりそうですよね。行田にゼリーフライ、フライがあるように、

全国にも昔から食べ継がれているその地域独自のグルメがあるわけで、同じB級

年の懸案でありました南大通線は、平成22年度に開通する見通しです。

今年は、「のぼうの城」の映画化に伴う観光施策の拡充や、将来を見据えたまちづくりの指針となる第5次行田市総合振興計画の策定をはじめ、トータルサポート推進事業、本市ならではの農産物による商品開発、食のブランド化など、新しい発想の中で、豊かな地域資源を生かした「元気な行田」・「新しい行田」のまちづくりを展開してまいりますので、市民の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

グルメの仲間として、その時には精一杯お迎えしたいと思えます。そして、各地域自慢の一品を、ぜひ私も食べ比べてみたいですね。

**市長** 矢内さんもお読みになっていると思いますが、和田竜さんの小説「のぼうの城」が36万部を超えるベストセラーになり、映画化も決定しています。今回の映画化は、行田を、そして忍城を日本全国の方に知っていただく千載一遇のチャンスだと思っています。撮影も、石田三成が陣を張った丸墓山古墳や古代蓮など、現存する素材をできるだけ使ってもらいたいとお願ひしています。